

平成 26 年度

病害虫発生予報第 7 号

平成 27 年 3 月 19 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	5
4. 予察項目の見方	8
5. 今月のトピックス(クワシロカイガラムシについて)	9
6. 気象のデータ	10
7. お知らせ	12

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネ(注 1)では、イネミズゾウムシの発生量は**平年並**と予想されます。

コムギ(注 2)では、赤かび病の発生量は**平年並**と予想されます。

(注 1:4 月中旬までに移植する圃場を対象。注 2:11 月上旬までに播種した圃場を対象。)

2) 果樹

カンキツでは、そうか病、かいよう病(温州みかん)の発生量は**平年並**、かいよう病(中晩柑)の発生量は**やや少**、ミカンハダニの発生量は**少**と予想されます。

ナシでは、黒星病、赤星病の発生量は**平年並**と予想されます。

3) 茶

チャでは、カンザワハダニの発生量は**やや多**と予想されますので、発生状況に注意して下さい。チャノホソガの発生時期は**平年並**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、灰色かび病、ハダニ類の発生量は**やや多**と予想されます。灰色かび病では、ハウス内の適切な温湿度管理と予防散布に努めてください。ハダニ類では、圃場内をよく観察し、寄生密度が高くないうちに防除を行ってください。うどんこ病の発生量は**平年並**と予想されます。

キャベツでは、菌核病の発生量は**平年並**と予想されます。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						3月		4月		
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	イネミズゾウムシ	—	平年並	小	普通			成虫誘殺数	1) 近年、実害は少ないので、移植後の発生状況に応じて防除してください。 2) 常発圃場では、箱施用剤による予防を行ってください。	
コムギ	赤かび病	—	平年並	小	普通			出穂期 開花期 感染 発病	1) 圃場ごとに出穂及び開花状況を把握し、開花始めから開花盛期に予防散布してください。 2) 防除所ホームページの「コムギ赤かび病・防除情報」において、出穂期および防除適期の予測(随時更新)を公開しています。	
カンキツ	そうか病	—	平年並	小	普通	葉枝の発病		発芽	1) 昨年に果実での発病がみられた圃場では、発芽期防除を実施してください。 2) 春葉が感染する期間は発芽直後から伸長停止期までです。 3) 越冬病斑の見られる枝葉は剪除して、圃場より持ち出して処分してください。	
	かいよう病	—	温州 平年並	温州 小	温州 普通			発病密度	1) 越冬病斑が認められる中晩柑圃場では、発芽前防除を実施してください。 2) 夏秋梢等の発病枝葉は早く剪除し、圃場より持ち出してください。 3) ボルドー液とマシン油乳剤の近接散布による薬害に注意してください。	
	ミカンハダニ	—	少	小	普通			成ダニ密度	1) 成虫が1葉当り1頭前後になったら防除してください。 2) マシン油乳剤を散布していない圃場や現在発生が認められる圃場では、今後の増加に注意してください。	

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						3月	4月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ナシ	黒星病	-	平年並	小	普通					1) りん片や新梢基部に発病が確認されたら、すぐに防除を実施してください。なお、発病したりん片は、基部から切除して圃場外で処分してください。 2) 例年発生が多い圃場では、早くから樹体の観察を怠らないようにしてください。
	赤星病	-	平年並	小	普通					1) 赤星病の防除時期は、黒星病の防除適期と重なります。 2) 特に開花期前後の防除が重要なので、各薬剤の特性を理解して両方に登録のある薬剤を使用してください。
チャ	カンザワハダニ	-	やや多	中	普通					1) 2月下旬～3月上旬に産卵します。 2) 摘採面には少ないですが、裾葉裏には生息していますので、薬剤が付着するよう丁寧に散布しましょう。 3) 年間10世代と発生回数が多く、薬剤抵抗性を獲得しやすいため、同一系統の薬剤使用は年1回に止めましょう。
	チャノホソガ	平年並	-	-	-					1) 新芽の葉裏に産卵します。 2) 成虫飛来が多くても、新芽がないと被害が少ないため、防除を省略できます。 3) 萌芽は例年4月上旬です。萌芽後は新芽への産卵や幼虫発生に注意してください。
イチゴ	灰色かび病	-	やや多	中	普通					1) 病害虫防除技術情報第18号(2月19日発表)。 2) 病勢が進行すると防除が困難になります。圃場をよく観察し、早期発見・早期防除に努めてください。 3) 20℃前後の温度と多湿条件で発生が多くなります。ハウス内の温度・湿度管理に注意してください。 4) 発病部位は伝染源となるため、こまめに取り除いて圃場外に持ち出し適切に処分してください。 5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比 程度		要防除 圃場率 平年比	発生活消長の一例				防除の注意事項
						3月	4月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イチゴ	うどんこ病	-	平年並	中	普通		<ol style="list-style-type: none"> 1) 軟弱徒長すると発生が多くなります。適切な温湿度管理、灌水管理に努めてください。 2) 発病部位は伝染源となるため、見つけ次第速やかに取り除いてください。 3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。 			
	ハダニ類	-	やや多	中	高		<ol style="list-style-type: none"> 1) 病害虫防除技術情報第17号(2月19日発表)。 2) 薬液がかかりやすくなるよう下葉を除去し、葉裏までしっかりと散布してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避けてください。また、抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用してください。 4) 薬剤散布では、収穫前日数とともに天敵やミツバチに対する影響も十分考慮して薬剤の選択を行ってください。 			
キャベツ	菌核病	-	平年並	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> 1) 発病株は伝染源となるため、菌核が形成される前に抜き取って圃場外へ持ち出し、処分してください。 2) 葉の傷口や生育の衰えた下葉から病原菌が感染し、結球期頃から発生が目立ち始めます。結球始期の予防散布を基本としてください。 3) 薬剤散布は、初発部位である株元を中心に丁寧に行ってください。 			

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 3か月予報(2月25日発表)によると、4月の気温は平年並か低い予想 (-)</p> <p>2) 予察灯(昨年7月第1半旬~9月第2半旬)では、誘殺数は192頭(平年163.5頭)とやや多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(昨年8月)では、発生圃場率15.3%(平年12.3%)と多、払い落とし虫数0.3頭(平年0.8頭)と少 (±)</p> <p>考察: 今後の気象条件、昨年の予察灯および巡回調査結果から、越冬成虫の予想発生量は平年並と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月12日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 農業研究所作況試験田(11月13日播種・あやひかり)によると、葉齢の進展は平年並 (±)</p> <p>3) 生育予測システム(11月10日播種・あやひかり・津。気温の設定3月平年並、4月やや低い。3月16日現在)によると、予想出穂期は4月15日頃(平年4月14日)と平年並 (±)</p> <p>考察: 今後の気象条件および現在の生育状況から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月12日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(無防除圃場)では、昨年7月下旬の春葉発病率91.5%(平年63.0%)と多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、旧葉(昨年の春葉)における発病度は0(平年0.0)と平年並に少 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と考えられ、大きな増加要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	-	温州 平年並 中晩柑 やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月12日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(無防除圃場、中晩柑、2月10日調査)では、越冬病斑の発病葉率28.1%(平年29.5%)とやや少、発病度6.7(平年6.4)と平年並 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、温州みかん旧葉での発病葉率0%(平年0.3%)と平年並に少、発病度0(平年0.05)と平年並に少、中晩柑類旧葉での発病葉率3.3%(平年9.8%)と少、発病度1.5(平年4.4)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は温州みかんで平年並に少、中晩柑類でやや少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 県予察圃、巡回調査圃場および一般圃場の発生状況から、予想発生量は温州みかんでは平年並、中晩柑類ではやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(3月12日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(3月上旬)では、寄生頭数は無防除区 0.07 頭/葉(平年 0.18 頭/葉)とやや少、慣行防除区 0 頭/葉(平年 0.02 頭/葉)と平年並に少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、寄生葉率 3.1%(平年 5.6%)と少、寄生頭数 0.10 頭/葉(平年 0.19 頭/葉)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察：圃場によるばらつきがあるものの現状の発生量は少と考えられ、大きな増加要因はないことから、予想発生量は少と考えます。</p>
ナシ	黒星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(3月12日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場では、昨年8月の発病葉率 1.1%(平年 1.9%)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、昨年秋の発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：昨年の一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	赤星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(3月12日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 一般圃場では、昨年春の発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：昨年の一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
チャ	カンザワハダニ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(3月12日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(3月上旬)では、寄生葉率 3.0%(平年 3.9%)とやや少、寄生頭数 0.03 頭/葉(平年 0.41 頭/葉)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発生圃場率 8.7%(平年 16.1%)と少、寄生葉率 0.4%(平年 1.2%)と少、寄生頭数 0.01 頭/葉(平年 0.02 頭/葉)と平年並 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は多 (+)</p> <p>考察：一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	チャノホソガ	平年並	-	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップでは、3月18日時点で飛来は未確認(平年の初飛来は3月19日) (発生時期±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、成虫は未確認 (発生時期±)</p> <p>考察：フェロモントラップ及び巡回調査結果を考慮して予想発生時期は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	灰色かび病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(3月12日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発病株率4.7%(平年2.5%)と多、発病果率1.2%(平年0.5%)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並～多(概してやや多) (+)</p> <p>考察：現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	うどんこ病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(3月12日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発病株率0%(平年0.3%)と平年並に少、発病果率0.1%(平年0.02%)と多 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～平年並(概して平年並) (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、大きな増加要因がないので、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(3月12日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第2週)では、寄生株率9.8%(平年17.9%)と少、発生程度4.5(平年8.9)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多～多(概してやや多) (+)</p> <p>考察：一般圃場での状況を重視して、現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
キャベツ	菌核病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(3月12日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 3月上旬～中旬にかけ降雨が継続 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(3月第2週)では、発病株率0%(平年0.6%)と平年並に少 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並に少だが、一部で発病を確認 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価	早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

			平年値 ↓			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス「クワシロカイガラムシ」について

1. どんな虫？

茶の重要害虫のひとつです。雄繭は白く毛羽だったカキ殻に似た形です(図 1)。雌成虫は白色の糸状物質を出して周辺又は全体が白くなります(図 2、3)。



図 1 クワシロカイガラムシ雄繭

図 2 雌成虫

(松阪農業改良普及センター原図)

2. 生態と被害

本県では年 3 世代発生します。第 1 世代は 5 月中下旬に、第 2 世代は 7 月中下旬に、第 3 世代は 9 月上中旬に孵化します。

表 1 亀山市における有効積算温度シミュレーション利用によるクワシロカイガラムシ第 1 世代幼虫孵化最盛日の予測(平成 26 年と平年の比較)

年度	予測日	実測日
平成 26 年	5 月 18 日	5 月 18 日
平年	5 月 21 日	5 月 22 日

標高、アメダスと摘採面との温度差、覆下栽培などによる誤差があるため、実際の防除は、歩行型幼虫発生をルーペで確認して防除しましょう(図 4)。

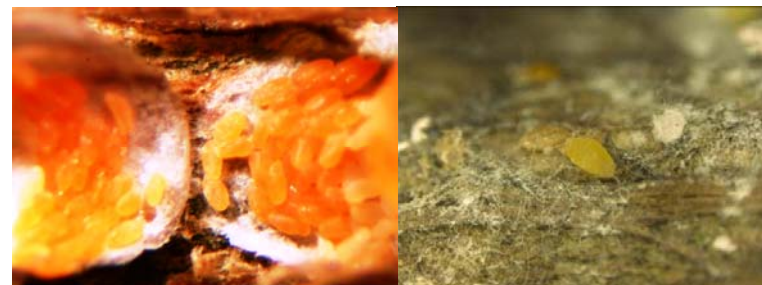


図 3 雌成虫と卵

図 4 歩行型幼虫

3. 防除のポイント

< 耕種的防除 >

- (1) 発生が多い場合は、一番茶又は二番茶摘採後に深刈せん定を行い、樹勢の回復を図りましょう。
- (2) 産卵期から幼虫孵化期に摘採等の作業を行う場合、発生の多い茶園は最後に行うようにし、茶袋を別の物に変えましょう。

< 薬剤防除の注意事項 >

- (1) 防除適期は孵化幼虫歩行～定着直後(幼虫孵化最盛日の 2～4 日間程度)です。これを過ぎると歩行型幼虫が固着して白色の糸状物質に覆われ、薬剤の効果が著しく低下します。
- (2) 指導機関の情報や自園の実際の孵化状況をルーペ等で確認して適期に防除しましょう。
- (3) 葉層があると薬液がかかりにくいので、専用ノズルや鉄砲ノズルを使って枝幹に十分かかるよう丁寧に散布しましょう。また、散布前に深刈りせん定を行うと効果的です。
- (4) 農薬散布は近隣圃場へのドリフト(農薬飛散)に注意して防除しましょう。

6. 気象のデータ

東海地方1か月予報(平成27年3月12日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう1か月は、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は高く、2週目は低いでしょう。

1週目 3月14日～20日	天気は数日の周期で変わりますが、気圧の谷の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日があるでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.3日・4.3日
2週目 3月21日～27日	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。	同 2.5日・4.0日
3～4週目 3月28日～4月10日	天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	同 4.5日・8.3日

東海地方週間天気予報(平成27年3月18日10時30分 名古屋地方気象台発表)

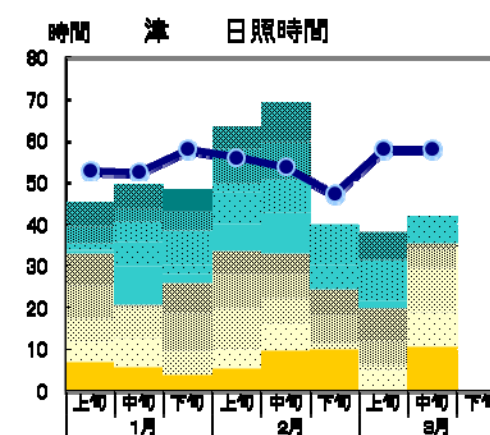
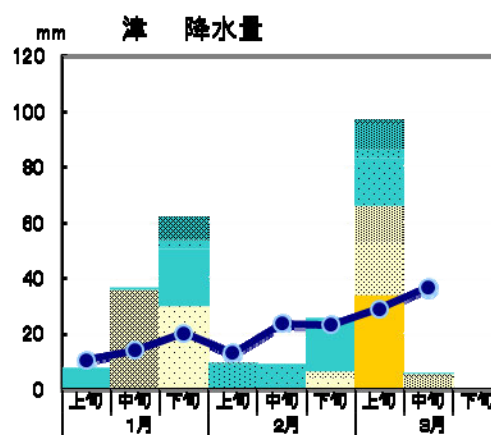
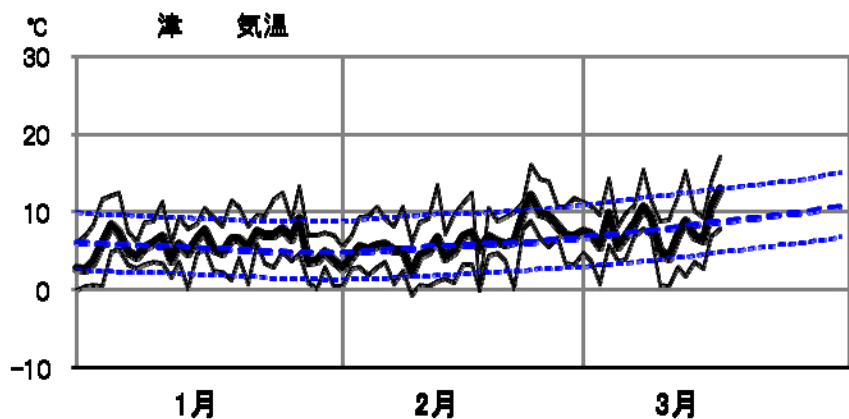
予報期間 3月19日～3月25日

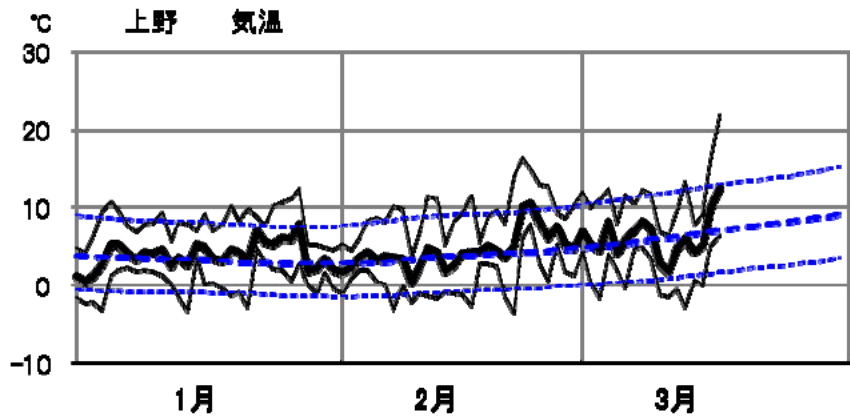
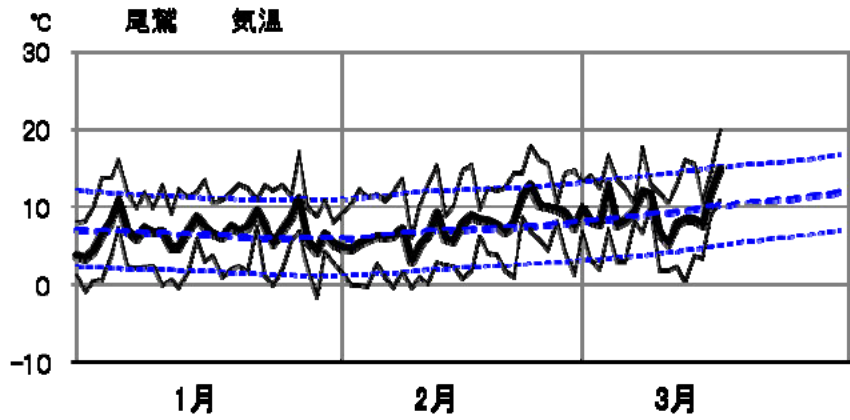
向こう一週間は、高気圧に覆われて晴れる日もありますが、気圧の谷の影響で雲が広がりやすいでしょう。

最高気温と最低気温はともに、期間の前半は平年より高く、かなり高い日もありますが、後半は平年並か平年より低いでしょう。

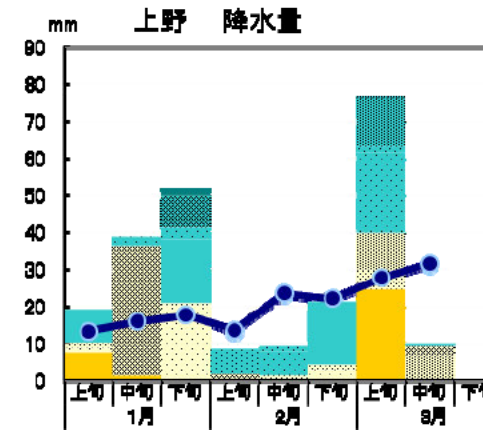
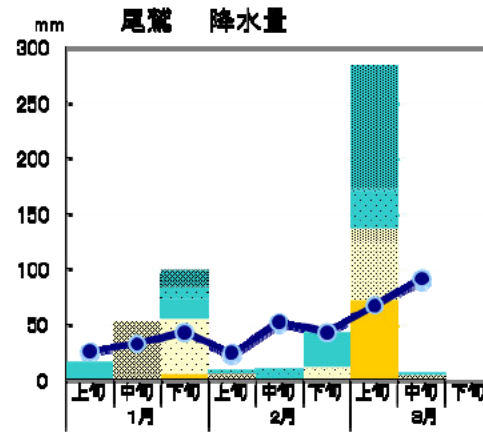
降水量は平年並か平年より多い見込みです。

気象の日別推移(気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (3月17日まで)

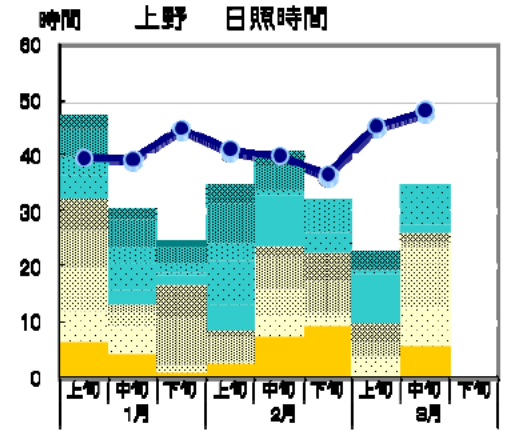
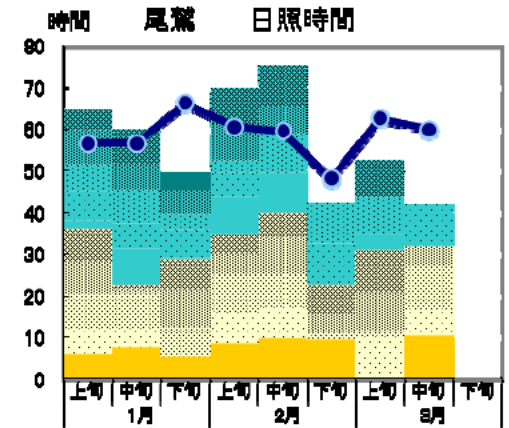




- 凡例
- 平均
 - 最高
 - 最低
 - - - 平年平均
 - - - 平年最高
 - - - 平年最低



- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値



- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回 4月24日(木)(済み) 第2回 5月29日(木)(済み)

第3回 6月26日(木)(済み) 第4回 7月24日(木)(済み)

第5回 8月28日(木)(済み) 第6回 10月23日(木)(済み)

第7回 3月19日(木)(今回)

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアド

レスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h26yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/work/ipm/main.htm>